

タイトルの「岁月縫継 葳蕤生香」は「素晴らしい思い出はいつまでも忘れずに、未来は常に花が咲き誇り、春のように明るく希望に満ちていることを願う」という意味です。

第6回

スィ ユエ チェンチュエン ウェイ ルイ ションシアン
岁月縫継 葳蕤生香

王 克麗（ワン・ケリ）

1992年、中国の河南省生まれ。

日本の音楽や映画、ドラマを通して日本に興味を持ち、天津職業技術師範大学で日本語を学ぶ。2023年4月10日、中国語のALTとして白糠に着任。



いつもコラムを読んでいただき本当にうれしいです。どこかで出会ったら、ぜひ感想を聞かせてください。

今回は主に庶路学園で勤務しているALT（外国語指導助手）のブランドン先生に、北海道へ来てからの4カ月間の間に感じたことを聞かせてもらいました。

初めての北海道

皆さんこんにちは。今年の8月5日に着任したブランドンです。さて、私が初めて北海道に来たの

は、8月の快晴の午後でした。新千歳空港に降り立ったとき「ここはふるさとみたいだな」と思いました。北海道の風景は、私が育ったアメリカ・オレゴン州の田舎ととても似ていました。広がる緑の丘陵や深い森、そしてその合間に見える田畑の景色。これまでの人生で最も遠くに来たはずなのに、どこかホッとした気持ちになりました。

新千歳空港から白糠町までのドライブで同じ気持ち強めてくれました。高速道路の両側に広がる田畑の風景がどこか懐かしく感じられたのです。オレゴンも山々や森に囲まれた土地で、道や町がその自然の中に点在しています。この風景を見て、北海道に来て良かったなと思いました。

日本人の常識は アメリカ人の非常識

アメリカでは、私はスープをほとんど飲みませんでした。嫌いではなかったものの、スープを飲むことに対する満足感が得られず、初めの数口以降は物足りないと感じてしまうのです。しかし、学校

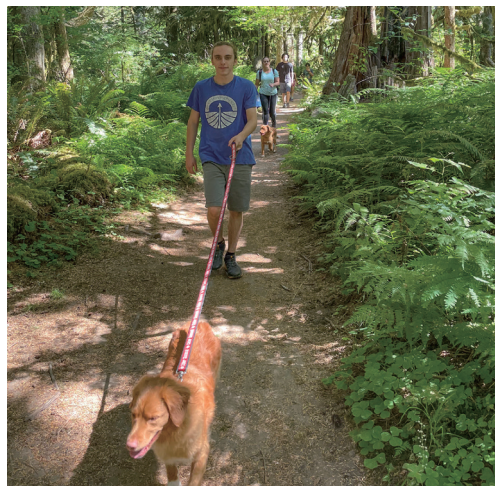
の給食には毎日必ずスープ（みそ汁）が出ます。まず、スープをどうやって飲んだらいいのか分かりませんでした。アメリカでは、直接器から飲むのは行儀が悪いとされています。そのため、器を持ってスープを飲むという行動に、どこか違和感を覚えました。言葉で説明するのは難しいのですが、最初の数週間での生活と以前の生活の距離を最も意識させられたのは、このありふれたスープでした。

季節の移り変わり

1カ月ほど前に東京へ3日間行った後、北海道へ戻ってくると、木々の葉がほとんど落ちていて、



庶路学園で働くブランドン先生



オレゴンで犬と散歩している弟のトラバスさん

見慣れた風景が少し変わっていました。ふるさとオレゴンの森は常緑樹が多く冬でも緑のままですが、白糠の丘はすっかり裸になり、翌朝には車に薄い氷が張っていました。フロントガラスの氷を削りながら「ここはやっぱり違う場所なんだな」と改めて感じました。そしてつい最近、初めて雪が降りました。ゆっくりと降り積もる雪が木々や建物を白く染める光景は本当に美しかったです。その朝、冷たい空気を感じながら車に乗り込み、ヒーターを全開にしながら、ふとお昼のことを考えていました。「温かいスープが待っている」それを思うと、また北海道に来て良かったなと思いました。